「第4回 食品産業もったいない大賞」

食品産業
もったいない大賞
**審査委員会
委員長賞**

応募名称

遊休農地と地域人材を活かして新たな茶産地を創生

会社名、事業場名

株式会社伊藤園

東京都渋谷区／http://www.itoen.co.jp/csr/cultivate/

▌具体的な取組内容▌

＜概要＞

社会・環境課題が複雑化する中で、多様な関係者との協働による価値創造と革新が必要です。このような中で、企業は本業を生かして社会課題解決型の事業に取り組み、共有価値を創造していく必要があります。特に、地域農業は遊休農地の拡大、食料自給率の向上、後継者問題、技術の伝承、安定した経営などの課題解決が求められています。

当社は国産の茶葉にこだわり、国内における茶葉供給量を確保する努力を続けています。当社は、『お客様第一主義』の下、「茶畑から茶殻まで」の調達、製造、商品開発、販売までのバリューチェーンを通じて関係者との連携で共有価値を生み出しています。

主力事業である緑茶事業では、原料茶葉の調達（国内荒茶生産量の約 4 分の 1 を扱う）が重要で、安定的・高品質な茶葉確保のため、一部を茶農家や行政と協働で取り組む「茶産地育成事業」を展開し、茶農家との契約栽培と、遊休農地などを利用して大規模な茶園で畑づくりから茶葉を育成する新産地事業（2001 年～）を実施しています。

新産地事業は、宮崎・大分・鹿児島・長崎の九州 4 県で展開しており、面積は、2015 年には計 1,034ha（契約栽培面積 668ha、新産地面積 366ha）、将来的には 2,000ha の規模を目指しています。

＜革新性・社会性＞

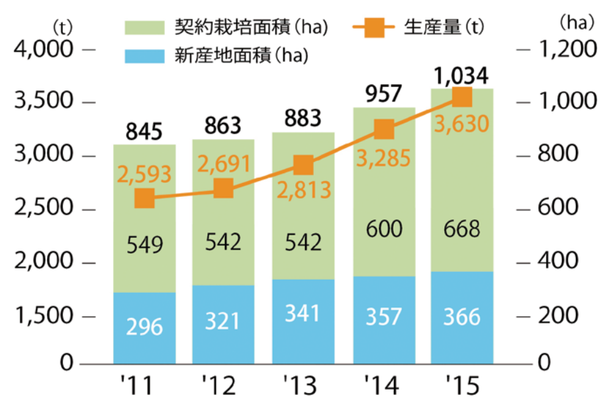
本事業では、茶農家への生産技術指導と全量買取という点が特徴的で、遊休農地の解消、雇用創出、食料自給率向上や、茶農家の経営安定等の社会的な課題の解決にもつながっています。加えて、他の作物からの転作や異業種参入などのシナジー効果を生み、6 次産業化による地域活性化、多様な関係者との協働による技術交流を通して緑茶の付加価値を高め、地域のブランド力の向上に貢献しています。

これらの取組は、世界的な持続可能な社会作りの共通言語と理解される、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」の「持続可能な農業」などの目標にも寄与することが期待されます。2016 年発行された「世界を変える企業 50 社」(※注) にランクインするなど国内外の評価も高まっており、今回の受賞も契機に、「世界のティーカンパニー」を目指した活動を加速していきます。

（※注）世界中で購読されている米国ビジネス誌『フォーチュン』の「2016 年 9 月 1 日号で「世界を変える企業 50 社」で 18 位（日本企業 2 社で最高位）に選出されました。

左上　耕作放棄された桑畑跡
左下　現在の茶畑の様子（大分県杵築地区）

茶産地育成事業による茶園面積および生産量の推移



新産地事業展開地区

茶産地育成事業で連携する伊藤園社員とパートナー

▌評価▌

担い手不足や農業経営など、農業における社会的課題に対して、高い視点から、地域農家と連携し、遊休農地を有効活用して、国産茶葉の安定的な調達を実現し、これによって、遊休農地の解消、雇用創出、茶農家の経営安定等の社会的課題の解決に貢献している点が高く評価できる。特に、もったいない遊休農地の活用は、日本の農業を活性化させ、農地の生産力を維持・向上していくための有効な取組である。